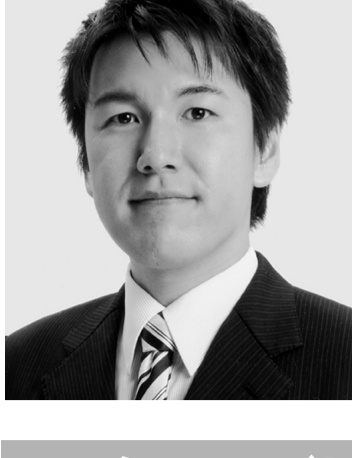


亀井たくま ニュース

発行 亀井 琢磨 2016年冬の便り号 (通算第31号)
自宅 〒260-0042 千葉市中央区椿森3-13-8 携帯 090-3694-4173
事務所 〒260-0042 千葉市中央区椿森5-4-5 TEL/FAX 043-255-8108
ホームページは「[亀井たくま](#)」で検索をお願いします! メール DQG06110@nifty.com



9月議会報告!さまざまな人権課題で提言! 市で働く職員の雇用・労働環境改善を!

市民の皆様、いつも市政へのご協力をありがとうございます!今年も皆様のおかげをもちまして、1年間走り続けることができました。心から感謝を申し上げます。来年もさまざまな課題・分野に挑戦し、精進することをお約束申し上げます。9月定例会議では、平成27年度決算を慎重に審議し、認定をいたしました。効率的な予算執行と各種施策推進に向けて、議会もより一層の研鑽が求められます。また、9月30日には一般質問(連続22回目)に登壇し、皆様からいただいたご意見・ご要望を反映してまいりました。以下、内容を要約してお届けいたします。2017年も皆様にとって良い1年となりますよう、お祈り申し上げます!

人権の課題(視覚障がい・色覚障がい・吃音・聴覚障がい)について

- Q 視覚障がいのある方のホーム転落死亡事故を受け、千葉駅にホームドアの早期設置を。モノレールでも転落防止対策を。
A (都市局長) ホームドアや可動式ホーム柵の設置をこれまでもJRに対して要望しており、今後も他の自治体と連携して要望していく。モノレールに関しては、ホーム巡回やホームでの転落防止の注意喚起のための改良を行い、9月より新たにガードマンを配置するなど、取り組みを強めている。
- Q 点字ブロックのさらなる整備を。視覚障がいの方々の意見反映は。
A (建設局長) 主要な駅と公共施設を結ぶ「バリアフリー経路」で85.8キロの点字ブロックの整備を進めており、27年度末までに67キロで整備完了した。32年度までにすべて設置する。配慮が必要な整備の際などに、現地立ち合い・意見交換などを行い、整備を進めている。
- Q 色覚障がい(色盲)は、かつて存在した進学差別や就職差別が改善されてきたが、現在も一部の職種(パイロット、自衛官、警察官、消防士など)で制限がある。本市の消防士の受験における色覚要件は。合理性は。要件をあらためる考えは。
A (消防局長) 「赤・青・黄が識別できること」を受験資格としている。災害現場での瞬時の判断能力や緊急車両の運転従事のため、色覚要件は必要であり、改定の予定はない。
- Q 学校における色覚検査は2003年に廃止されたが、復活・拡大していると聞く。本市の現状は。学校の授業では適切な配慮を。
A (教育次長) 健康診断の必須項目からは除外されているが、本市では小学4年時に希望する児童生徒に検査を実施している。さらに今年度から全児童生徒を対象として希望に応じて検査を行っている。色覚障がいのある児童生徒には、授業時に黒板の板書や資料などを配慮している。



【点字ブロック整備を進めています】(中央区登戸)

- Q 多くの人に見えやすい、色に配慮した「カラーユニバーサルデザイン」の取り組みを。
A (保健福祉局長) 昨年3月に、先進市の事例や障がい者団体の意見を参考に「すべての人にわかりやすい印刷物について」を作成し、市職員の研修会を実施した。今後は障がい者差別解消に向けて職員研修で活用を図り、取り組みを進めていく。
- Q 吃音(言葉や会話が流暢に出ない症状)の方への理解促進を。学校における吃音の子どもたちへの支援や理解啓発を。
A (教育次長) 小学校12校に「ことばの教室」を設置し、指導・支援を行っている。指導にあたっては、吃音のある児童がリラックスして話することができるよう、学級担任や周囲の児童への助言も行っている。
- Q 市として、吃音に対する方々の理解啓発の取り組みを。
A (保健福祉局長) 市内では、啓発や早期発見のための交流会や相談会を開催している「千葉市ことばを育てる会」や「千葉言友会」が活動しており、今後もこれらの団体への支援を通じて、吃音などの聞こえや言葉に悩みを抱えている方々の理解と啓発に努めていく。
- Q 聴覚障がいのある子どもたちへの支援を。授業や校外活動でのボランティアによるノートの書き取り支援(ノートテイク)の拡大を。
A (教育次長) 大学生等によるボランティアを派遣し、ノートテイクや水泳指導の補助を行っている。27年度は対象児童9人に対して343回の派遣を行い、学習や校外活動での支援を行っている。今後もきめ細かい支援に努めていく。
- Q 聴覚障がいの子どもたちの声や要望を踏まえて、「情報保障」へのさらなる取り組みを。
A (教育次長) 子どもたちのアンケート結果を踏まえて、今後もボランティアによるノートテイク事業、FM補聴器の貸出、要約筆記者派遣事業の周知など、ひとりひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実を図っていく。



亀井はこう考える! ひとりひとりの人権・課題に寄り添う支援を!

8月、東京メトロ青山一丁目駅で視覚障がいのある男性がホームから転落し、死亡するという痛ましい事故が起きました。こうした死亡事故は過去にも発生しており、多くの視覚障がいの方がホームから転落した経験があるとされています。多くの駅でホームドア設置や改善策が進むように、今後も議会内外から求めていきます。また、点字ブロックの整備も含め、当事者意見・視点を反映したハード面・ソフト面での施策推進が求められます。

また、色覚障がい(色覚異常)は男性の5%、女性の0.2%の方が該当しますが、かつては色盲と呼ばれ、進学や就職でのいじめや差別を受けてきました。現在でも一部の職業で制限がありますが、その「合理性」について質問を行いました。学校における色覚検査は2003年に廃止されましたが、現在、形を変えて再び行われています。色覚検査はもともと大正時代の徴兵検査が発端点であり、合理性や根拠が曖昧なまま、それが今日まで連綿と来ています。色覚障害といっても千差万別で、多くの方が日常的には支障なく生活されています。色が見えないことを問題視するよりも、社会的な障壁を減らしていくことが求められます。昨今では、「ユニバーサルデザイン信号」や「色覚補正の眼鏡」などの新しい技術も登場しており、色覚障がいの方の障壁もいつの日かなくなる日が来ると思います。

「吃音」も人口の1%が該当しますが、「どもり」と呼ばれています。吃音の子どもたちはからかいやいじめの対象となりやすく、そのような経験がまた話すことや人前へ出ることに恐怖につながり、就職などに失敗し、社会的にも孤立してしまう方もいます。吃音に関して広く理解啓発の取り組みを求めました。吃音も治すことが難しいとされていますが、治すのではなく、社会の側が受け止め、社会的な障壁をなくしていくことが大切だと思います。

また、3回目となる「聴覚障がいのある方々・子どもたちへの情報保障」については、聴覚障がいのある方々の声を届け、授業中のノート書き取り支援など、さらなる施策前進を求めました。子どもたちへの情報保障は学習権の保障であり、きめ細かい支援が望まれます。聴覚障がいの方々の情報保障についても、昨今では、映画館でスマホや専用メガネに字幕が表示される技術などが誕生しています。そのような技術が進歩し、いずれ障壁もなくなっていき、そんな日を願ってやみません。

障害者差別解消法が4月から施行され、私は「合理的配慮の推進」「障壁をなくしていくこと」を提言し続けています。バリアフリーやユニバーサルデザインの考えが少しずつ浸透していますが、現実の社会にはまだまだ障壁や課題が横たわっています。ひとりひとりを大切にそんな社会に向け、今後も小さな声を市政に届けてまいります

(2)

市役所・市の施設で働く職員の雇用・労働環境について

- Q メンタルによる休職者の現状も認識は。職員のメンタルヘルス対策は。
A (総務局長) 平成27年度は55人。過去5年間で50人代で推移している。早期対応のための精神科医や臨床心理士等による相談の場を実施している。休職者にはリワーク研修やリハビリ出勤を実施し、円滑な職場復帰と再発防止を図っている。今年度からはストレスチェック制度を導入し、高ストレス者へのケアや職場環境の改善につなげていく。
- Q 働き過ぎの労働者に対しては医師の面接が義務付けられている現状は。医師面接が進むよう取り組みを。
A (総務局長) 昨年度、長時間勤務により対象となった職員は351名で、うち62名が産業医の面接を受けている。研修や周知を通じて医師面接を受けやすい職場づくりに取り組んでいく。
- Q メンタルによる休職者が職場復帰しやすい環境づくりを。
A (総務局長) 職場の理解と協力のもと、リハビリ出勤のを行い、円滑なコミュニケーションが図れるよう配慮し、当事者の不安・負担の軽減に努めている。管理職、主治医、産業医などが連携して、労働環境の調整や配慮など復職支援を行っている。
- Q セクハラ・パワハラ等のハラスメント防止への対策を。
A (総務局長) 今年度、新任の課長、補佐、主査を対象にパワハラ防止の研修を行うとともに、全職員を対象とした研修も実施する。職場で相談があった場合には迅速かつ適切に対応し、組織をあげて防止に取り組んでいく。
- Q 以前の議会でも提案した「待遇の改善」について、その後の取り組みは。
A (総務局長) 新規採用職員や中堅職員を対象に研修を実施しており、8月には区役所職員を対象に、挨拶や返事の仕方、クレームへの対応などについて、ごとう千葉市の職員を講師とした研修を実施した。今後も待遇向上に努めていく。
- Q 時間外勤務の現状は。縮減にどのように取り組むか。
A (総務局長) 平成21年度は職員1人あたり月平均14.3時間であったが、時間外勤務縮減の取り組みを進めたことにより、昨年度は13.6時間に減少している。時間外縮減対策については、「新・仕事ダイエット」計画を策定し、業務量の縮減、職員の意識改革を今後も進めていく。➡(※時間外勤務を減らすことは残業代の縮減にもつながります)
- Q 教職員のメンタルヘルス対策は。
A (教育次長) 平成27年度、精神疾患による休職者は22名で割合は増加している。平成20年度から、医師やスクールカウンセラー等による「教職員メンタルサポート委員会」を設置し、対応策を協議している。現在、年に2回、メンタルヘルス研修会を開催し、スクールカウンセラーによる学校への巡回訪問(年間18校程度)を行っている。
- Q 小中学校教職員の休憩時間の実態は。休憩時間の確保への取り組みは。
A (教育次長) 給食の時間から昼休みにかけてとることとしているが、給食指導のためにとれない教職員もいることは承知している。業間休みや教科指導の合間の休み時間等に取得するなど、状況に応じて休憩時間の確保に努めている。
- Q 本市の非正規職員は3750人(割合は33%)であり、非正規職員と正規職員との格差も存在する。非正規職員の待遇改善を。
A (総務局長) 賃金・休暇制度の改善など待遇改善に取り組んでいる。国も非常勤職員の採用や勤務条件について検討を行っており、動向を注視するとともに、働きやすい職場づくりに今後も取り組んでいく。



亀井はこう考える! 官民問わず、健康・安心で働き続けられる環境を!

前回の議会では「こころの健康」について質問しましたが、こころの健康は誰にとっても大切な問題です。今回は、市役所や市の施設で働く方々の健康・雇用・労働環境について質問・提案を行いました。市役所や市の施設、学校では、多くの職員が働いていますが、「こころの健康」を失い、休職している職員も多く存在しています。また、病気により現職のまま亡くなったり、自ら命を断つ方も少なからず存在します。

市の施設の職員ひとりひとりが健康でやりがいをもって働き続けられる環境をつくるのが大切ですし、そのことはひいては市民サービスの向上にもつながります。メンタルヘルス、ストレスチェック、ハラスメント、過労死防止の各対策、時間外勤務の削減、有給休暇の取得促進、非正規職員の待遇改善など、さまざまな点から質問・提案を行いました。「同一労働同一賃金」「正規・非正規などの格差の解消」をはじめ、公務職場の雇用・労働環境改善は、地域の民間職場の雇用・労働環境改善にもつながるものです。

(3)

日々精進の記録! ~写真で見る活動記録~

圏央道の早期完成を! 圏央道会議に市議会代表として出席!

11月2日、首都圏8都府県で構成される「圏央道建設促進会議総会」に市議会を代表して出席しました。圏央道は平成28年度末で約89%の区間が整備され、県内では「大栄~松尾横芝」間を整備中です。生産・物流・観光などの地域経済活性化に向けて、早期の完成が急がれます。



千葉駅がリニューアルオープン! 新たに千葉公園口も整備されました!

11月20日、JR千葉駅がリニューアルオープンし、多くの方で賑わいました。モノレールとの連絡通路が整備され、利便性が向上するとともに、弁天町側に新たに「千葉公園口」(北口階段)が設置されました。これまで地元の皆様と取り組みをしてきましたが、今後もさらなる改善に向け、行動してまいります。



精神保健福祉施策前進に向け、研修・実習へ行ってきました。

10月~11月の約1か月間にわたり、精神科病院(医療)、地域活動支援センター(福祉)において、精神保健福祉に関する研修・実習を受けてきました。「精神障がい」や「こころの病」は誰にでも起こりうることです。12月議会の質問でもテーマとして取り組んできましたが(次号で報告します)、今後も学びを深め、市政・地域に活かしてまいります。

TEL/FAX 043-255-8108 携帯電話 090-3694-4173

市政へのご意見は

(事務員もおらず、1人で活動しておりますので、留守が多いです。携帯電話が留守番電話にメッセージをお願いします!お手紙も大歓迎です!)

ホームページ <http://www.kamei-takuma.com>

メール DQG06110@nifty.com

フェイスブック、ツイッター、ブログもやっています! 亀井たくまで検索を!



亀井たくまのプロフィール

1980年生まれ。椿森出身・在住。36歳。作草部幼稚園、都賀小、椿森中、市立千葉高、早稲田大学政経学部、同大学院公共経営研究科修士。行政書士。社会福祉士。椿森3丁目役員。千葉市スポーツ推進委員。千葉県スポーツ振興委員会委員、委員。千葉県34委員。青少年相談員。ホームヘルパー2級。防災士。都市建設委員会副委員長。都市計画審議会委員。2007年の市議選は21票差で落選。2011年、初当選。2015年再選。日々修行中です! 趣味は明治~昭和の懐メロです。(介護施設、老人会、自治会等で懐メロの演奏・茶話会のボランティアできます!詳しくはお電話ください!)好きな歌手は灰田勝彦、東海林太郎です。

市民の皆様と一緒にクリーン・あたたかな市政をめざします! ワンコインカンパ(1口500円・複数口大歓迎!)にご協力ください。郵便振替口座 00190-7-456984 亀井たくまと亀の歩みの会

最後までお読みいただきまして、ありがとうございました!

(4)